

2. 産 業

C0201-1 産業分類別就業者数

令和2年の常住地における就業者数は4,641人で、総人口に対する就業率は54.2%である。産業別就業人口の構成比は、第1次産業6.7%、第2次産業41.3%、第3次産業49.5%で、第3次産業の就業者数の割合が最も高くなっている。

平成12年から令和2年にかけての常住地における産業別就業人口の推移を見ると、第1次産業は△82人、構成比で1.5%減少、第2次産業は△434人、構成比で7.8%減少、第3次産業は258人、構成比で6.8%の増加となっている。

令和2年の従業地における就業者数は4,670人で産業別就業人口の構成比は、第1次産業6.6%、第2次産業53.6%、第3次産業37.3%となっており、第2次産業の就業者数の割合が最も高くなっている。

表2-1-1 産業分類別常住地・従業地別就業者数

■常住地 (平成12,17,22,27年、令和2年国勢調査 産業分類別就業者数常住地別就業者数をもとに作成)

産業大分類	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	就業者数	構成比								
A. 農業, 林業	390	8.2	423	8.9	304	6.7	327	7.2	311	6.7
うち 農業	381	8.0	416	9.1	296	6.5	322	6.9	300	6.5
B. 漁業	3	0.1	2	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
第1次産業合計	393	8.2	425	8.9	304	6.7	328	7.3	311	6.7
C. 鉱業	2	0.0	2	0.0	0	0.0	2	0.0	1	0.0
D. 建設業	404	8.4	355	7.4	306	6.7	308	6.8	287	6.2
E. 製造業	1,943	40.6	1,753	36.8	1,665	36.4	1,594	35.2	1,627	35.1
第2次産業合計	2,349	49.1	2,110	44.2	1,971	43.1	1,904	42.1	1,915	41.3
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	29	0.6	14	0.3	12	0.3	17	0.4	17	0.4
G. 情報通信業	145	3.0	22	0.5	30	0.7	38	0.8	28	0.6
H. 運輸業, 郵便業			108	2.3	135	3.0	109	2.4	114	2.5
I. 卸売・小売業	679	14.2	549	11.5	521	11.4	533	11.8	517	11.1
J. 金融・保険業	62	1.3	65	1.4	78	1.7	76	1.7	57	1.2
K. 不動産業, 物品賃貸業	13	0.3	9	0.2	23	0.5	23	0.5	26	0.6
L. 学術研究, 専門・技術サービス業	999	20.9	/	/	78	1.7	87	1.9	97	2.1
M. 宿泊業, 飲食サービス業			182	3.8	206	4.5	168	3.7	156	3.4
N. 生活関連サービス業, 娯楽業			/	/	133	2.9	117	2.6	113	2.4
O. 教育, 学習支援業			167	3.5	171	3.7	170	3.8	163	3.5
P. 医療, 福祉			415	8.7	488	10.7	552	12.2	635	13.7
Q. 複合サービス事業			72	1.5	54	1.2	70	1.5	50	1.1
R. サービス業(他に分類されないもの)			525	11.0	156	3.4	182	4.0	197	4.2
S. 公務(他に分類されるものを除く)	113	2.4	98	2.1	113	2.5	109	2.4	128	2.8
第3次産業合計	2,040	42.7	2,226	46.7	2,198	48.1	2,251	49.8	2,298	49.5
T. 分類不能	0	0.0	9	0.2	97	2.1	41	0.9	117	2.5
合 計	4,782	100.0	4,770	100.0	4,570	100.0	4,524	100.0	4,641	100.0

注:平成17年の/は、用いていない産業大分類

表2-1-2 産業分類別常住地・従業地別就業者数

■従業地

(平成12,17,22,27年、令和2年国勢調査 産業分類別就業者数従業地就業者数をもとに作成)

産業大分類	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年	
	就業者数	構成比								
A. 農業，林業	425	8.7	430	8.8	306	6.8	330	7.3	310	6.6
うち農業	416	8.5	427	9.5	305	6.8	330	7.1	305	6.5
B. 漁業	4	0.1	3	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.0
第1次産業合計	429	8.7	433	8.8	306	6.8	331	7.4	310	6.6
C. 鉱業	7	0.1	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
D. 建設業	328	6.7	299	6.1	220	4.9	213	4.7	209	4.5
E. 製造業	2,542	51.8	2,419	49.3	2,236	49.7	2,219	49.3	2,294	49.1
第2次産業合計	2,877	58.6	2,719	55.4	2,456	54.6	2,433	54.1	2,503	53.6
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	10	0.2	5	0.1	1	0.0	3	0.1	5	0.1
G. 情報通信業	67	1.4	19	0.4	21	0.5	30	0.7	23	0.5
H. 運輸業，郵便業			37	0.8	67	1.5	54	1.2	62	1.3
I. 卸売・小売業	581	11.8	467	9.5	448	10.0	410	9.1	368	7.9
J. 金融・保険業	25	0.5	30	0.6	32	0.7	26	0.6	25	0.5
K. 不動産業，物品賃貸業	11	0.2	7	0.1	16	0.4	18	0.4	21	0.4
L. 学術研究，専門・技術サービス業	824	16.8	/	/	96	2.1	89	2.0	115	2.5
M. 宿泊業，飲食サービス業			140	2.9	154	3.4	118	2.6	108	2.3
N. 生活関連サービス業，娯楽業			/	/	72	1.6	66	1.5	68	1.5
O. 教育，学習支援業			301	6.1	108	2.4	109	2.4	117	2.5
P. 医療，福祉			119	2.4	370	8.2	465	10.3	499	10.7
Q. 複合サービス事業			62	1.3	48	1.1	63	1.4	45	1.0
R. サービス業(他に分類されないもの)			490	10.0	121	2.7	152	3.4	180	3.9
S. 公務(他に分類されるものを除く)			82	1.7	70	1.4	90	2.0	95	2.1
第3次産業合計	1,600	32.6	1,747	35.6	1,644	36.5	1,698	37.7	1,741	37.3
T. 分類不能	0	0.0	9	0.2	95	2.1	39	0.9	116	2.5
合 計	4,906	100.0	4,908	100.0	4,501	100.0	4,501	100.0	4,670	100.0

注：平成17年の/は、用いていない産業大分類

図2-1 産業分類別常住地・従業地別就業者数

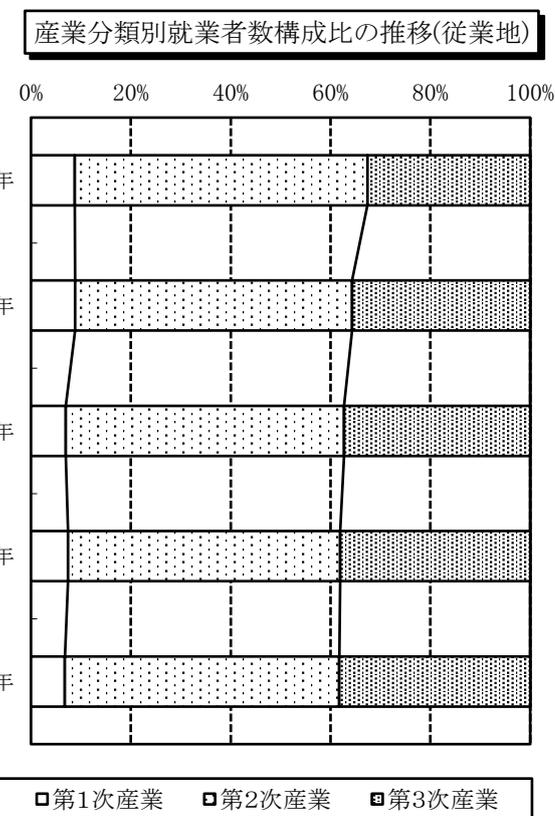
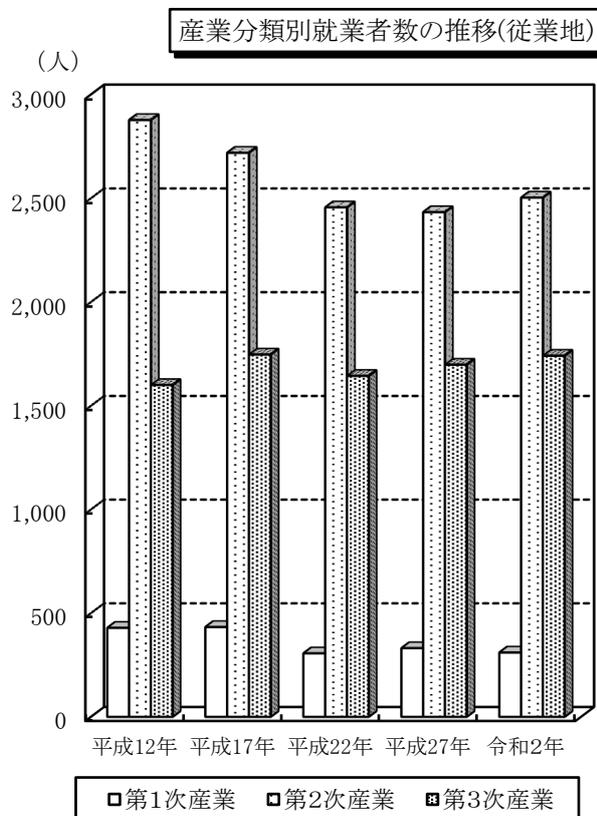
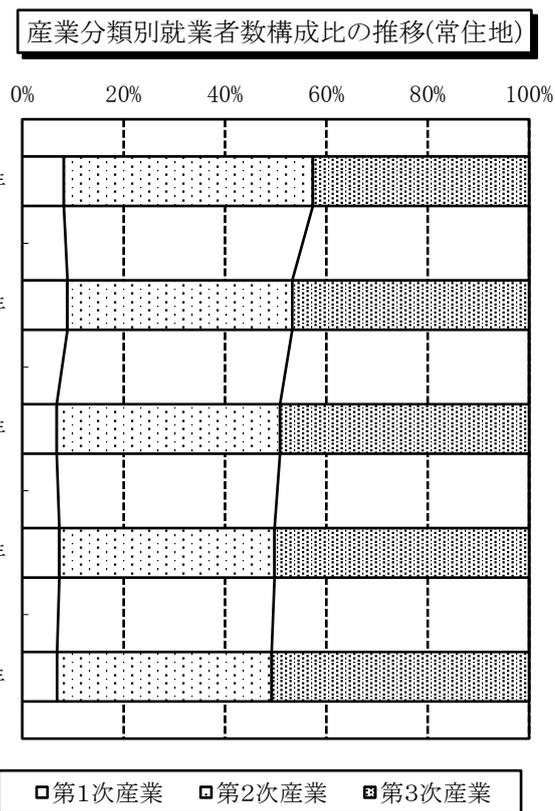
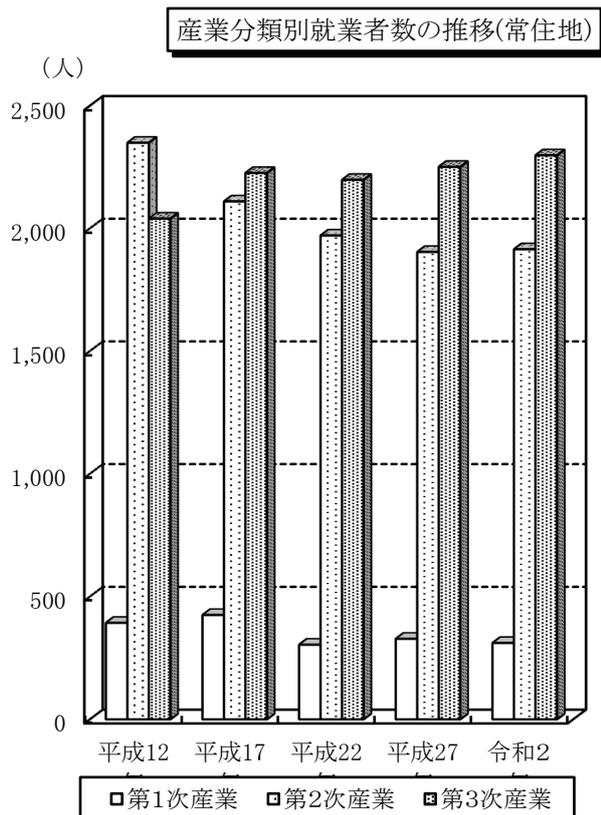


図2-2 令和2年 産業分類別就業者数構成比(常住地)

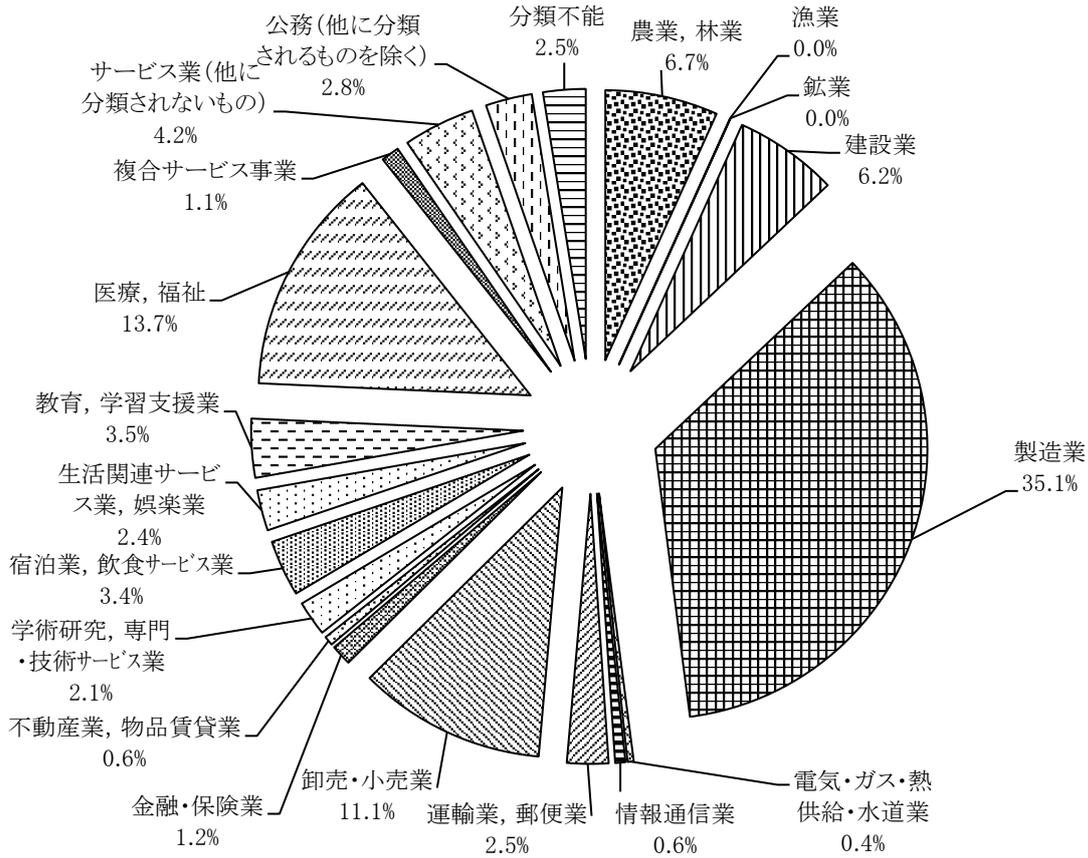
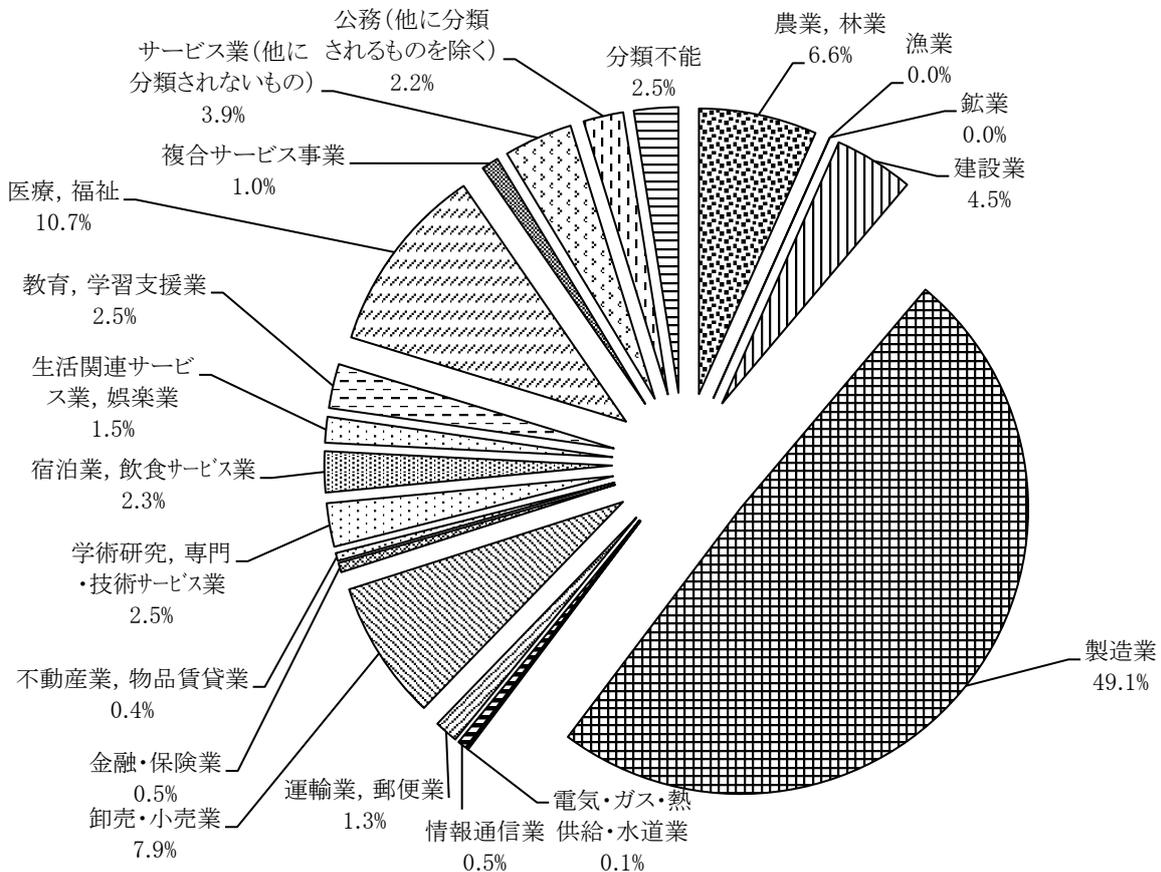


図2-3 令和2年 産業分類別就業者数構成比(従業地)



■ 産業分類別就業者数の推計

最小二乗法による令和2年を基準年とした産業大分類別就業者数の推計結果は、第1次産業は今後も減少傾向で推移し、令和22年には143人から197人の幅で推計される。第2次産業も減少傾向で推移し、令和22年には407人から1,409人の幅で推計され、それに対し第3次産業については、今後も増加が予測され令和22年には2,407人から2,527人の幅で推計される。

表2-2 産業分類別就業者数の推計

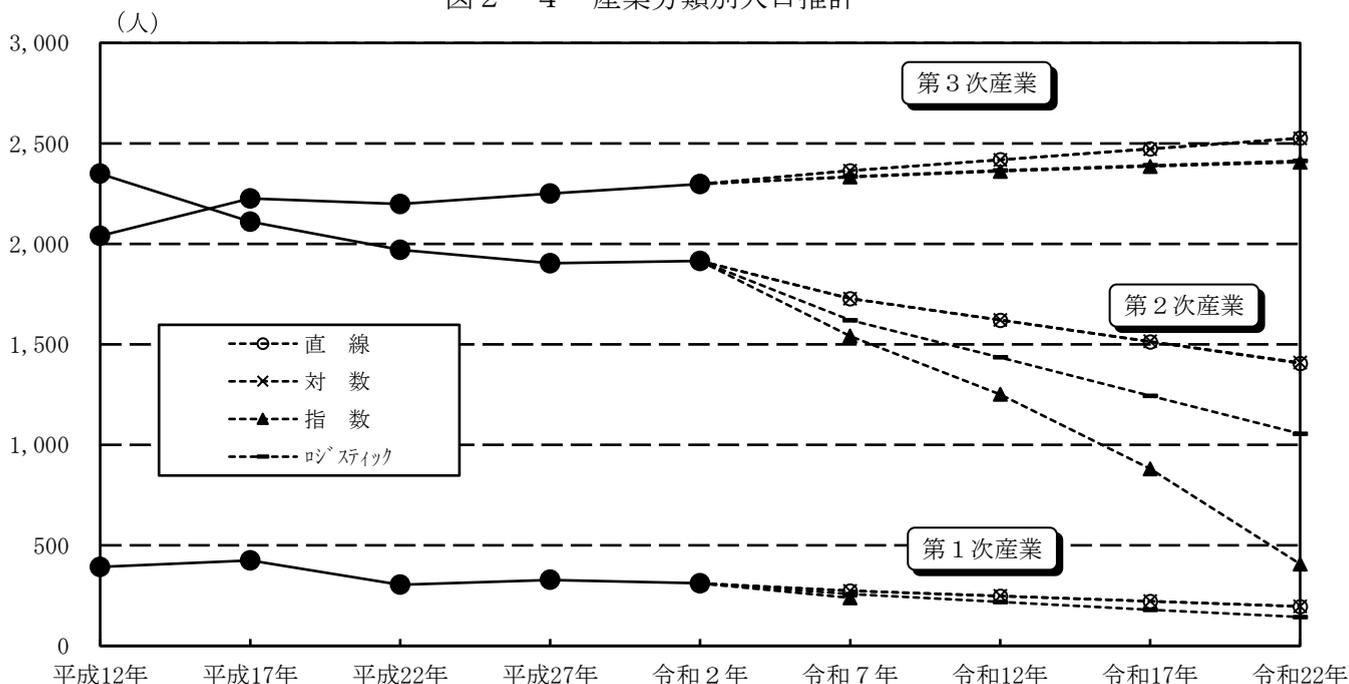
(単位:人)

	推計名	H12	H17	H22	H27	R2年 基準年	R7	R12	R17	R22	備考
第1次産業	実数値	393	425	304	328	311	/	/	/	/	
	直線	/	/	/	/	/	274	248	222	196	$y = -5.22 * X + 10844.4$ 決定係数 0.5887
	対数	/	/	/	/	/	274	248	222	197	$y = -10494.4425175142 * \log x + 80171.7104706553$ 決定係数 0.5890
	指数	/	/	/	/	/	239	169	77	-	$y = 467.5 - (2.19985160450062E-45) * 1.05491636182081^X$ 決定係数 0.5220
	ロジスティック	/	/	/	/	/	258	218	179	143	$y = 467.5 / (1 + (1.27409931726754E-60) * \exp^{-0.0680036650888153 * X})$ 決定係数 0.5389
第2次産業	実数値	2,349	2,110	1,971	1,904	1,915	/	/	/	/	
	直線	/	/	/	/	/	1,728	1,620	1,513	1,405	$y = -21.48 * X + 45224.6$ 決定係数 0.8311
	対数	/	/	/	/	/	1,728	1,622	1,515	1,409	$y = -43203.0058232886 * \log x + 330646.842665263$ 決定係数 0.8322
	指数	/	/	/	/	/	1,541	1,251	881	407	$y = 2583.9 - 7.18823961584372E-41 * 1.05030224508478^X$ 決定係数 0.7582
	ロジスティック	/	/	/	/	/	1,620	1,435	1,245	1,056	$y = 2583.9 / (1 + (4.16981374379037E-53) * \exp^{-0.0593034787536999 * X})$ 決定係数 0.7746
第3次産業	実数値	2,040	2,226	2,198	2,251	2,298	/	/	/	/	
	直線	/	/	/	/	/	2,365	2,419	2,473	2,527	$y = 10.82 * X - 19545.6$ 決定係数 0.7612
	対数	/	/	/	/	/	2,365	2,418	2,472	2,525	$y = 21757.8710681567 * \log x - 163285.239363121$ 決定係数 0.7619
	指数	/	/	/	/	/	2,333	2,361	2,386	2,407	$y = 2527.8 - 1.94841118220297E+30 * 0.968664237499296^X$ 決定係数 0.8138
	ロジスティック	/	/	/	/	/	2,336	2,366	2,392	2,413	$y = 2527.8 / (1 + (1.99691174057111E+31) * \exp^{-0.0368241723107337 * X})$ 決定係数 0.8068

注:・最小二乗法による推計値は、平成12年から令和2年の5年ごと20年間のデータを基に算出。

・備考欄には各々の式を示した。

図2-4 産業分類別人口推計



C0201-2 職業分類別就業者数

令和2年の常住地における職業分類別就業者数の構成比は、生産工程従事者が29.4%と最も高くなっており、次いで事務従事者が14.9%、専門的・技術的職業従事者が14.8%、サービス職業従事者が10.5%の順となっている。

令和2年の従業地における職業分類別人口の構成比は、生産工程従事者が38.4%と最も高くなっており、次いで専門的・技術的職業従事者が13.4%、事務従事者が13.0%、サービス職業従事者が8.1%の順となっている。

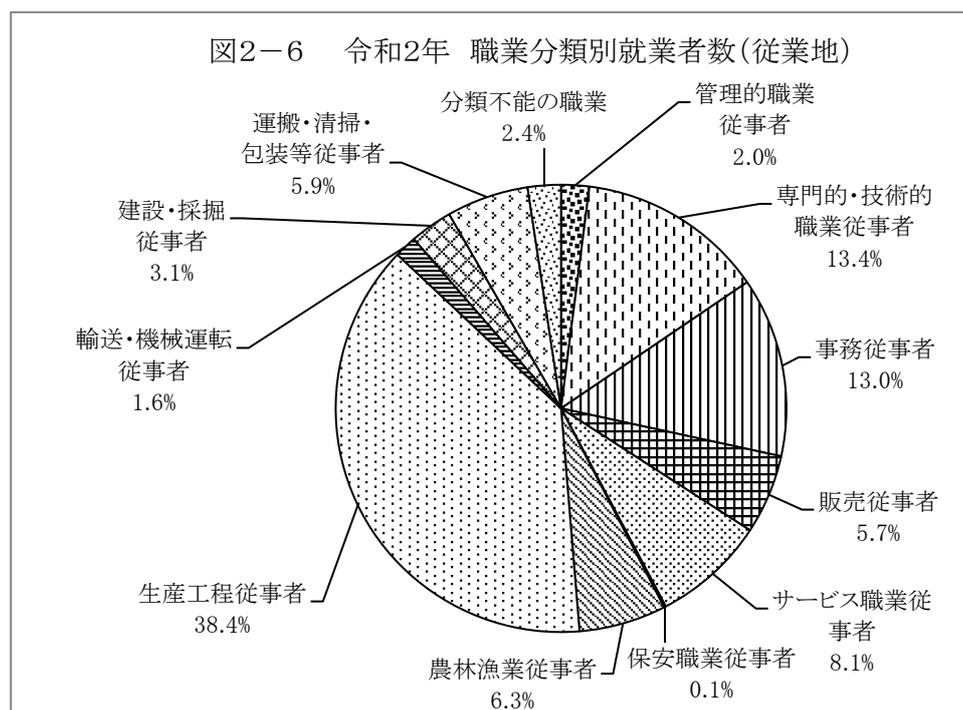
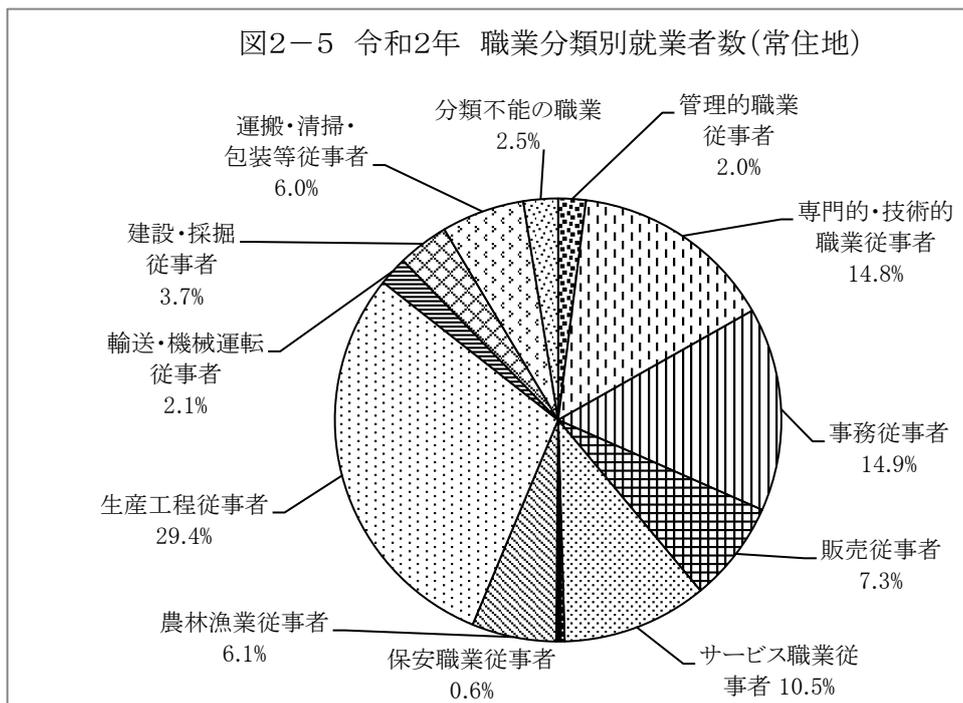


表2-3 職業分類別常驻地・従業地別就業者数 (平成12,17,22,27年、令和2年国勢調査産業分類別就業者数常驻地・従業地別就業者数をもとに作成)

職業大分類	平成12年			平成17年			職業大分類 (職業新大分類)	平成22年			平成27年			令和2年						
	常驻地による		従業地による	常驻地による		従業地による		常驻地による		従業地による	常驻地による		従業地による	常驻地による		従業地による				
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %		就業者数 人	構成比 %											
専門的・技術的 A.職業従事者	533	11.1	453	9.2	551	11.6	478	9.7	117	2.6	109	2.4	139	3.1	116	2.6	93	2.0	94	2.0
B.管理的職業従事者	154	3.2	147	3.0	104	2.2	100	2.0	642	14.0	531	11.8	685	15.1	601	13.4	686	14.8	628	13.4
C.事務従事者	629	13.2	596	12.1	655	13.7	611	12.4	665	14.6	561	12.5	663	14.7	564	12.5	690	14.9	606	13.0
D.販売従事者	408	8.5	318	6.5	402	8.4	318	6.5	399	8.7	314	7.0	361	8.0	264	5.9	341	7.3	268	5.7
E.サービス職業 従事者	334	7.0	283	5.8	424	8.9	350	7.1	468	10.2	366	8.1	469	10.4	389	8.6	489	10.5	380	8.1
F.保安職業従事者	27	0.6	9	0.2	26	0.5	15	0.3	27	0.6	11	0.2	25	0.6	7	0.2	28	0.6	6	0.1
G.農林漁業従事者	359	7.5	380	7.7	385	8.1	407	8.3	274	6.0	266	5.9	301	6.7	313	7.0	284	6.1	292	6.3
H.運輸・通信従事者	131	2.7	90	1.8	108	2.3	68	1.4	1,330	29.1	1,807	40.1	1,284	28.4	1,750	38.9	1,365	29.4	1,792	38.4
I.生産工程・ 労務作業	2,207	46.2	2,630	53.6	2,107	44.2	2,551	52.0	111	2.4	68	1.5	93	2.1	60	1.3	98	2.1	75	1.6
J.分類不能の職業	0	0.0	0	0.0	8	0.2	10	0.2	95	2.1	94	2.1	40	0.9	38	0.8	116	2.5	111	2.4
合計	4,782	100.0	4,906	100.0	4,770	100.0	4,908	100.0	4,570	100.0	4,501	100.0	4,524	100.0	4,501	100.0	4,641	100.0	4,670	100.0

注：・構成比は、小数点第1位で四捨五入したため、合計と内容の計が一致しない場合もある。

C0202-1 産業大分類別事業所数及び従業者数

令和3年の事業所数は412事業所であり、そのうち卸売業・小売業は83事業所で全事業所数の20.1%を占め、次いで製造業が75事業所で18.2%、建設業が52事業所で12.6%、生活関連サービス業、娯楽業が39事業所で9.5%、宿泊業、飲食サービス業が37事業所で9.0%の順となっている。従業者数は4,575人であり、製造業が最も多く2,392人、次いで医療、福祉が608人、卸売業、小売業が454人、サービス業が165人、建設業161人の順となっている。従業者規模別では従業者数1～4人以下の小規模事業所(民営)が全体の66.8%を占めている。

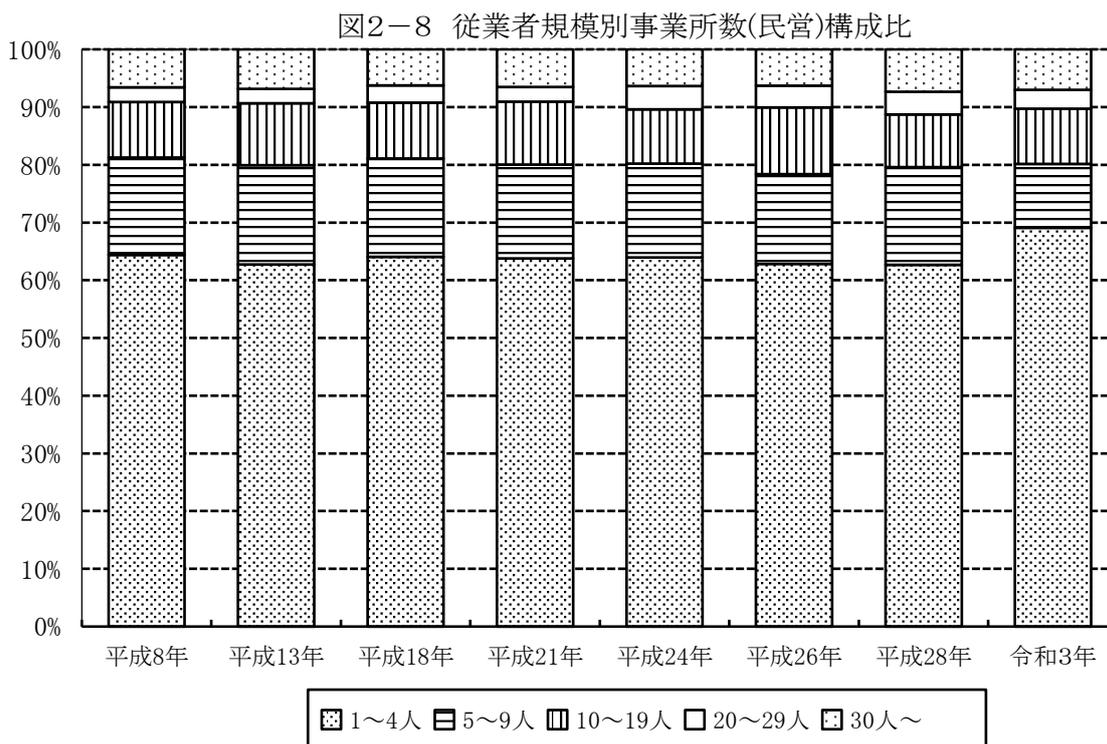
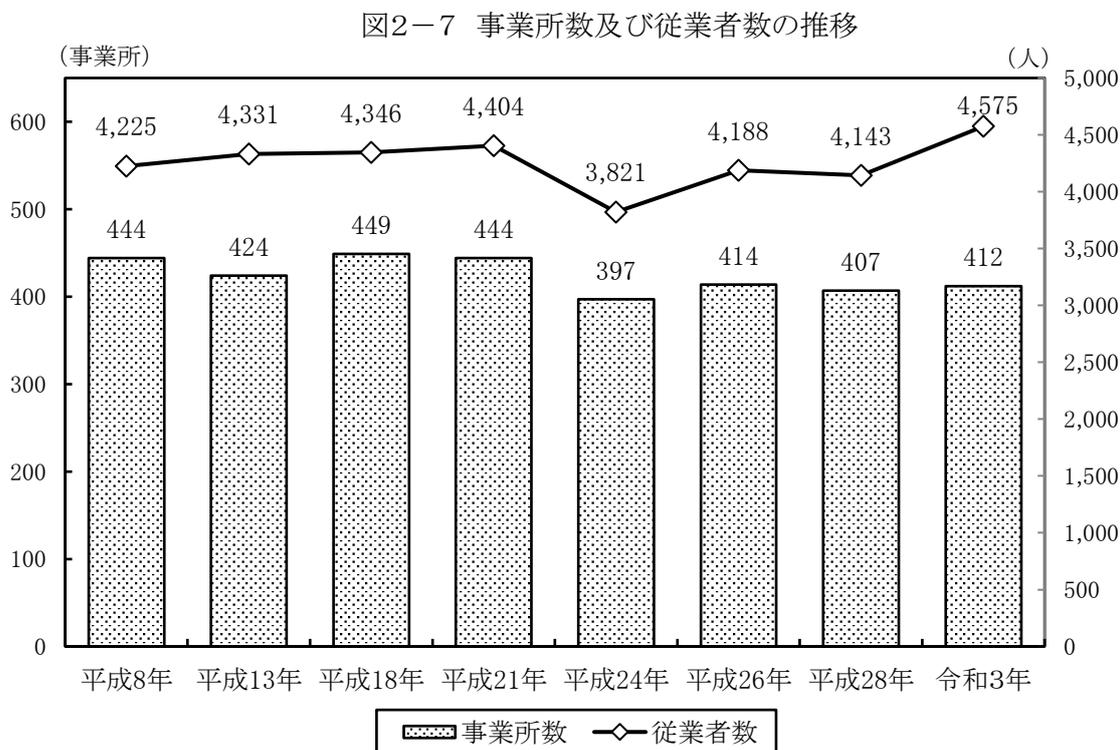


表2-4-1 産業大分類別事業所数・従業者数 (宮田町調査(基準日:令和5年3月31日現在))

産業大分類	平成8年					平成13年					事業所数	従業者数	国・地方公共団体事業所	派遣従業者のみ	従業者規模別事業所数(民営)	事業所数	従業者数	
	従業者規模別事業所数(民営)					従業者規模別事業所数(民営)												
	1~4	5~9	10~19	20~29	30~	1~4	5~9	10~19	20~29	30~								
A.B.C.農林漁業	6	2	-	-	1	109	5	2	-	1	109	5	2	-	1	-	1	97
D.鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
E.建設業	58	37	15	4	1	296	51	31	13	6	1	51	31	13	6	1	-	268
F.製造業	111	48	13	22	6	2,437	96	37	16	18	4	96	37	16	18	4	21	2,445
G.電気・ガス・熱供給・水道	2	-	-	-	-	13	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	8
H.運輸・通信業	5	2	1	1	-	46	7	4	-	2	-	7	4	-	-	-	1	53
I.卸売・小売業	141	105	26	6	3	597	142	99	26	12	3	142	99	26	12	3	2	698
J.金融・保険業	3	1	-	2	-	26	3	-	1	2	-	3	-	1	2	-	-	31
K.不動産業	7	6	1	-	-	15	6	6	-	-	-	6	6	-	-	-	-	13
L.サービス業	107	74	14	6	1	618	109	77	14	3	2	109	77	14	3	2	4	648
M.公務	4	-	-	-	-	68	4	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	70
N.分類不能の産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	444	275	72	41	11	4,225	424	256	70	44	10	424	256	70	44	10	28	4,331

注1:平成8年までは、事業所数に派遣・下請従業者のみも含む。資料:事業所・企業統計調査(各年10月1日)

表2-4-3 産業大分類別事業所数・従業者数・売上金額

(宮田町調査(基準日:令和5年3月31日現在))

産業大分類	平成26年					平成28年					令和3年																
	従業者規模別事業所数(民営)					公共団体事業所数	従業者数	売上金額 人百万円	事業所数	従業者規模別事業所数(民営)					公共団体事業所数	従業者数	売上金額 人百万円										
	1~4	5~9	10~19	20~29	30~					派遣 従業者 のみ	1~4	5~9	10~19	20~29				30~									
A~B農林水産業	4	1	2	-	-	1	90	614	4	1	2	-	-	1	-	72	719	5	3	1	-	-	1	-	77	...	
C. 鉱業, 採石業, 採砂採取業	0	-	-	-	-	-	-	...	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	1,025	
D. 建設業	49	41	4	3	1	-	171	2,473	50	38	9	2	1	-	-	181	...	52	47	4	1	-	-	-	161	-	
E. 製造業	85	30	17	12	9	17	2,121	42,495	88	32	16	14	9	17	-	2,256	62,749	75	31	8	10	8	18	-	2,392	...	
F. 電気・ガス・熱供給・水道業	1	-	-	-	-	-	6	...	0	-	-	-	-	-	-	-	-	5	4	-	-	-	-	1	11	47,731	
G. 情報通信業	1	-	1	-	-	-	8	...	1	-	-	1	-	-	-	11	...	1	0	-	-	1	-	-	23	...	
H. 運輸業, 郵便業	7	3	2	1	1	-	51	1,148	6	2	2	1	1	-	-	50	...	4	0	2	1	1	-	-	53	...	
I. 卸売業, 小売業	84	54	12	14	1	2	498	12,060	84	56	13	10	2	3	-	504	15,482	83	62	9	8	1	3	-	454	...	
J. 金融業, 保険業	4	2	-	2	-	-	27	467	4	2	-	2	-	-	-	26	...	4	1	-	3	-	-	-	37	14,487	
K. 不動産業, 物品賃貸業	7	7	-	-	-	-	13	187	9	8	-	1	-	-	-	28	139	9	8	1	-	-	-	-	32	...	
L. 学術研究, 専門・技術サービス業	17	14	2	1	-	-	49	149	20	18	1	-	1	-	-	63	339	21	17	1	3	-	-	-	78	305	
M. 宿泊業, 飲食サービス業	40	25	10	4	1	-	209	899	41	25	12	3	1	-	-	209	715	37	29	5	3	-	-	-	160	602	
N. 生活関連サービス業, 娯楽業	41	39	1	-	-	-	79	182	42	40	2	-	-	-	-	80	204	39	38	-	-	-	1	-	103	412	
O. 教育, 学習支援業	10	5	1	-	-	-	4	95	8	8	-	-	-	-	-	13	...	13	9	-	-	-	-	-	4	114	355
P. 医療, 福祉	35	16	4	5	1	4	537	1,961	29	15	6	-	-	8	-	500	2,689	32	11	7	4	-	5	-	608	...	
Q. 複合サービス事業	4	2	-	1	-	1	45	...	2	-	1	-	-	1	-	41	...	3	1	1	-	1	-	-	-	29	2,595
R. サービス業 (他に分類されないもの)	21	11	6	3	1	-	126	753	19	10	5	3	1	-	-	109	...	25	14	5	5	1	-	-	165	...	
S. 公 (他に分類されるものを除く) 務	4	-	-	-	-	-	4	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	4	78	
合計	414	250	62	46	15	25	15	4,188	407	255	69	37	16	30	0	4,143	...	412	275	44	38	13	28	-	14	4,575	...

注・事業所に関する集計における売上(収入)金額は、事業所単位の把握ができていない一部の産業(ネットワーク型産業)※については「...」で表しています。
 ※「建設業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「通信業」、「放送業」、「映像・音声・文字情報制作業」、「運輸業、郵便業」、「金融業、保険業」、「学校教育」、
 ・「郵便局」、「政治・経済・文化団体」及び「宗教」
 ・令和元年の経済センサス基礎調査は、幾つかの産業分類において個人経営事業所を除いているため非掲載とした。
 ・xは秘密保持のための伏せ字

資料:平成26年は経済センサス-基礎調査(7月1日)
 平成28年、令和3年は経済センサス-活動調査(6月1日)

C0202-2 産業中分類別工業出荷額

工業出荷額(デフレータ補正值)の推移を見ると、平成22年から平成24年にかけて減少しその後は増加傾向であったが、平成30年から令和2年にかけて一時減少したものの再び増加に転じ令和3年の工業出荷額は564億円となっている。

(百万円) 図2-9 工業出荷額の推移

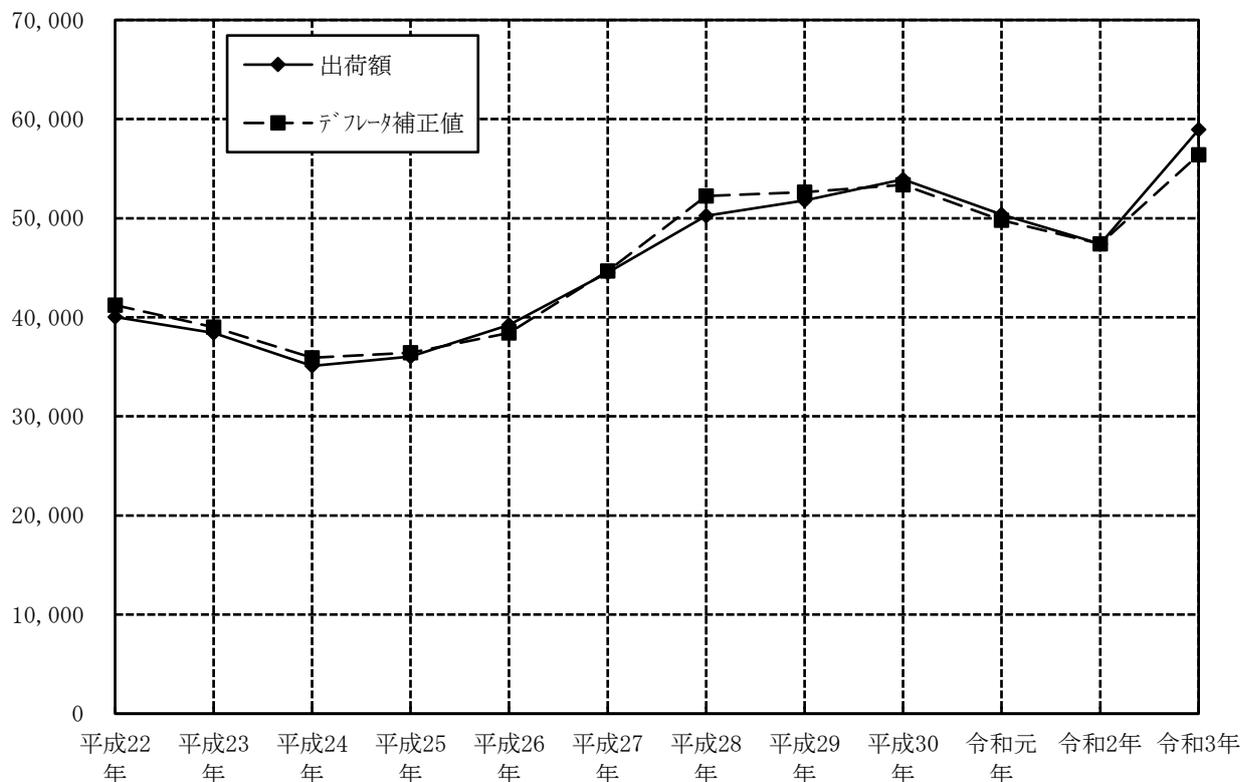


表2-5 工業出荷額の推移

(単位:百万円)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
出荷額	40,038	38,413	35,093	36,031	39,232	44,523
デフレータ補正值	41,234	38,998	35,919	36,432	38,425	44,657

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出荷額	50,241	51,773	53,914	50,382	47,413	58,931
デフレータ補正值	52,226	52,615	53,380	49,785	47,413	56,393

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値。

・平成14年以降は従業員4人以上の事業所

表2-6-1 産業中分類別工業出荷額

(単位:百万円)

産業中分類	平成 22 年		平成 23 年		平成 24 年		平成 25 年	
	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值
合計	40,038	41,234	38,413	38,998	35,093	35,919	36,031	36,432
09. 食 料 品	χ	χ	1,194	1,212	χ	χ	χ	χ
10. 飲料・たばこ・飼料	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11. 織 維	980	1,009	1,340	1,360	1,260	1,290	χ	χ
12. 木材・木製品 (家具を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 家具・装備品	127	131	168	171	191	195	169	171
14. パルプ・紙 ・紙加工品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
15. 印刷・同関連	-	-	-	-	-	-	-	-
16. 化 学	-	-	-	-	-	-	-	-
17. 石油製品 ・石炭製品	-	-	-	-	-	-	-	-
18. プラスチック製品 (別掲を除く)	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
19. ゴ ム 製 品	-	-	-	-	-	-	-	-
20. なめし革・同 製品・毛皮	-	-	-	-	-	-	-	-
21. 窯業・土石製品	1,183	1,218	χ	χ	χ	χ	936	946
22. 鉄 鋼	-	-	-	-	-	-	-	-
23. 非 鉄 金 属	-	-	-	-	-	-	-	-
24. 金 属 製 品	17,520	18,043	18,896	19,184	15,914	16,289	19,642	19,860
25. はん用機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	2,421	2,448
26. 生産用機械器具	χ	χ	1,129	1,146	800	819	χ	χ
27. 業務用機械器具	9,896	10,192	7,357	7,469	7,720	7,902	3,841	3,884
28. 電子部品・デバイス・ 電子回路	282	290	1,744	1,771	1,971	2,017	2,087	2,110
29. 電気機械器具	3,669	3,779	898	912	χ	χ	942	952
30. 情報通信機械器具	-	-	-	-	χ	χ	χ	χ
31. 輸送用機械器具	2,345	2,415	2,225	2,259	2,521	2,580	2,412	2,439
32. そ の 他	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値

資料:工業統計調査(各年12月31日)

・χは秘密保持のための伏せ字

平成23年工業統計調査は、平成24年2月に実施した「平成24年経済センサス-活動調査」の中の製造業

表2-6-2 産業中分類別工業出荷額

(単位:百万円)

産業中分類	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值
合計	39,232	38,425	44,523	44,657	50,241	52,226	51,773	52,615
09. 食料品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
10. 飲料・たばこ・飼料	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11. 繊維	χ	χ	χ	χ	1,057	1,099	994	1,010
12. 木材・木製品 (家具を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 家具・装備品	180	176	χ	χ	χ	χ	χ	χ
14. パルプ・紙 ・紙加工品	χ	χ	-	-	χ	χ	χ	χ
15. 印刷・同関連	-	-	-	-	-	-	-	-
16. 化学	-	-	-	-	-	-	-	-
17. 石油製品 ・石炭製品	-	-	-	-	-	-	-	-
18. プラスチック製品 (別掲を除く)	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
19. ゴム製品	-	-	-	-	-	-	-	-
20. なめし革・同 製品・毛皮	-	-	-	-	-	-	-	-
21. 窯業・土石製品	1,063	1,041	χ	χ	946	983	986	1,002
22. 鉄鋼	-	-	-	-	-	-	-	-
23. 非鉄金属	-	-	-	-	-	-	-	-
24. 金属製品	17,270	16,915	21,600	21,156	24,167	25,122	25,982	26,404
25. はん用機械器具	2,623	2,569	χ	χ	χ	χ	1,810	1,839
26. 生産用機械器具	χ	χ	1,625	1,592	χ	χ	1,262	1,283
27. 業務用機械器具	6,979	6,835	5,946	5,824	10,737	11,161	9,386	9,539
28. 電子部品・デバイス・ 電子回路	χ	χ	4,049	3,966	2,470	2,568	3,252	3,305
29. 電気機械器具	1,367	1,339	χ	χ	χ	χ	χ	χ
30. 情報通信機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
31. 輸送用機械器具	2,782	2,725	3,154	3,089	3,376	3,509	3,231	3,284
32. その他	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値 資料:工業統計調査(基準日:各年12月31日現在)
・χは秘密保持のための伏せ字 平成27年は経済センサス-活動調査(基準日:各年12月31日現在)

表2-6-3 産業中分類別工業出荷額

(単位:百万円)

産業中分類	平成30年		令和元年		令和2年		令和3年	
	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值	出荷額	デフレータ補正值
合計	53,914	53,380	50,382	49,785	47,413	47,413	58,931	56,393
09. 食料品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
10. 飲料・たばこ・飼料	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
11. 繊維	799	791	951	940	1,650	1,650	646	618
12. 木材・木製品 (家具を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 家具・装備品	χ	χ	χ	χ	χ	χ	104	100
14. パルプ・紙 ・紙加工品	-	-	-	-	-	-	-	-
15. 印刷・同関連	-	-	-	-	-	-	-	-
16. 化学	-	-	-	-	-	-	-	-
17. 石油製品 ・石炭製品	-	-	-	-	-	-	-	-
18. プラスチック製品 (別掲を除く)	χ	χ	1,268	1,253	794	794	1,314	1,257
19. ゴム製品	-	-	-	-	-	-	-	-
20. なめし革・同 製品・毛皮	-	-	-	-	-	-	-	-
21. 窯業・土石製品	1,217	1,205	1,099	1,086	1,195	1,195	1,236	1,183
22. 鉄鋼	-	-	-	-	-	-	-	-
23. 非鉄金属	-	-	-	-	-	-	χ	χ
24. 金属製品	27,129	26,860	24,635	24,343	21,304	21,304	25,321	24,231
25. はん用機械器具	χ	χ	χ	χ	1,317	1,317	1,491	1,427
26. 生産用機械器具	1,145	1,134	χ	χ	3,581	3,581	9,431	9,025
27. 業務用機械器具	10,140	10,040	9,609	9,495	8,972	8,972	9,611	9,197
28. 電子部品・デバイス・ 電子回路	2,842	2,814	2,319	2,292	499	499	499	478
29. 電気機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
30. 情報通信機械器具	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
31. 輸送用機械器具	4,164	4,123	4,024	3,976	3,261	3,261	3,944	3,774
32. その他	χ	χ	χ	χ	886	886	956	915

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした国内卸売物価指数で補正した数値

資料:工業統計調査(基準日:各年12月31日現在)

・χは秘密保持のための伏せ字

令和2年は経済センサス-活動調査(基準日:各年12月31日現在)

2022年経済構造実態調査 製造業事業所調査(基準日:12月31日現在)

■ 将来工業出荷額(実質出荷額)

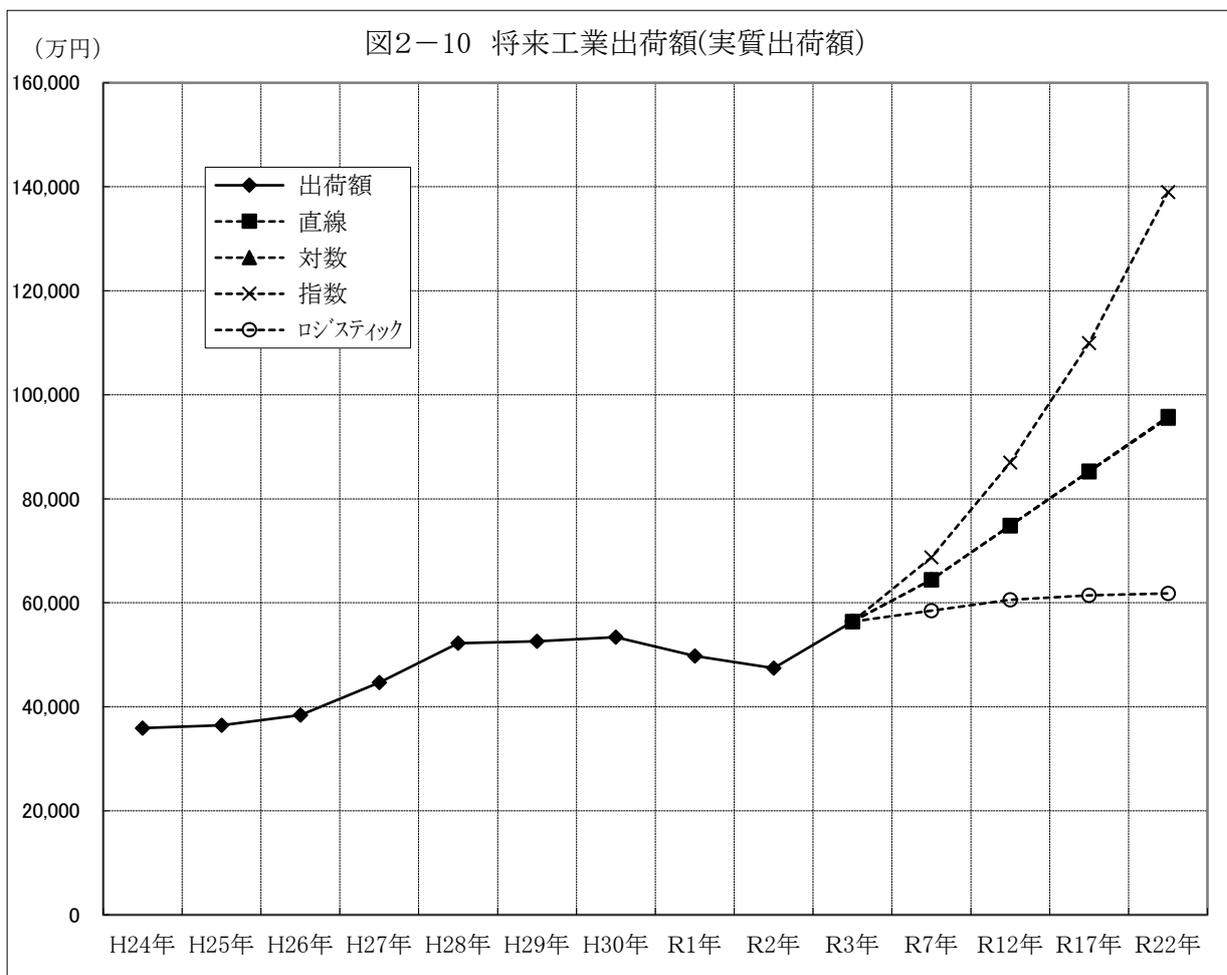
平成24年から令和3年までの工業出荷額(デフレータ補正值)を基に行った推計結果は、令和2年(基準年)の工業出荷額 474億円が令和22年には618億円から1,390億円の幅で推計され、そのうち決定係数の一番高い回帰式によると1,390億円と推測される。

表2-7 将来工業出荷額(実質出荷額)

(単位:百万円)

推計方法	令和2年 (基準年)	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
直線: $y=ax+b$	(実績値)	64,471	74,910	85,349	95,789
対数: $y=a\log x+b$	47,413	64,442	74,827	85,186	95,520
指数: $y=K-ab^x$		68,769	86,951	109,940	139,008
ロジスティック: $y=k/(1+a\exp^{-bx})$		58,510	60,601	61,463	61,808
推 計 式					
直 線	$y=2087.83461096149x+-4163394.05026421$				決定係数=0.70732
対 数	$y=4211082.95462054\log x+-31995900.9817716$				決定係数=0.70764
指 数	$y=3.75687373311974E-37*1.04803690282808^x$				決定係数=0.71589
ロジスティック	$y=62032.6315789474/(1+2.0910119782027E+163\exp^{-0.187095800636695x})$				決定係数=0.68773

注: 推計にあたっては平成24年から令和3年の数値(デフレータ補正值)により推計。



C0202-3 産業中分類別商業販売額

令和2年の商業販売額(デフレータ補正值)は136億円で、そのうち卸売業が69.1%、小売業が30.9%の構成比となっている。商業販売額(デフレータ補正值)の推移を見ると、平成9年以降減少傾向にあったが、平成16年から平成19年にかけて一時増加したものの再び減少に転じたが、近年、平成26年から令和2年にかけては、卸売業の増加により24億円の増加となっている。

図2-11 商業販売額の推移

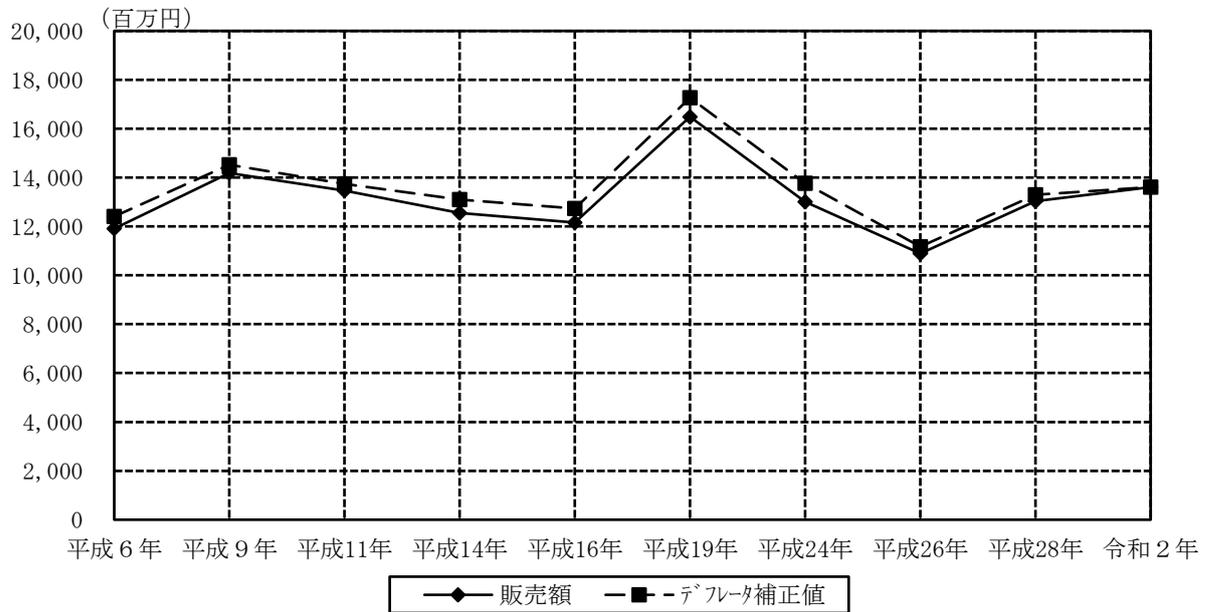


図2-12 業種別販売額の推移(デフレータ補正值)

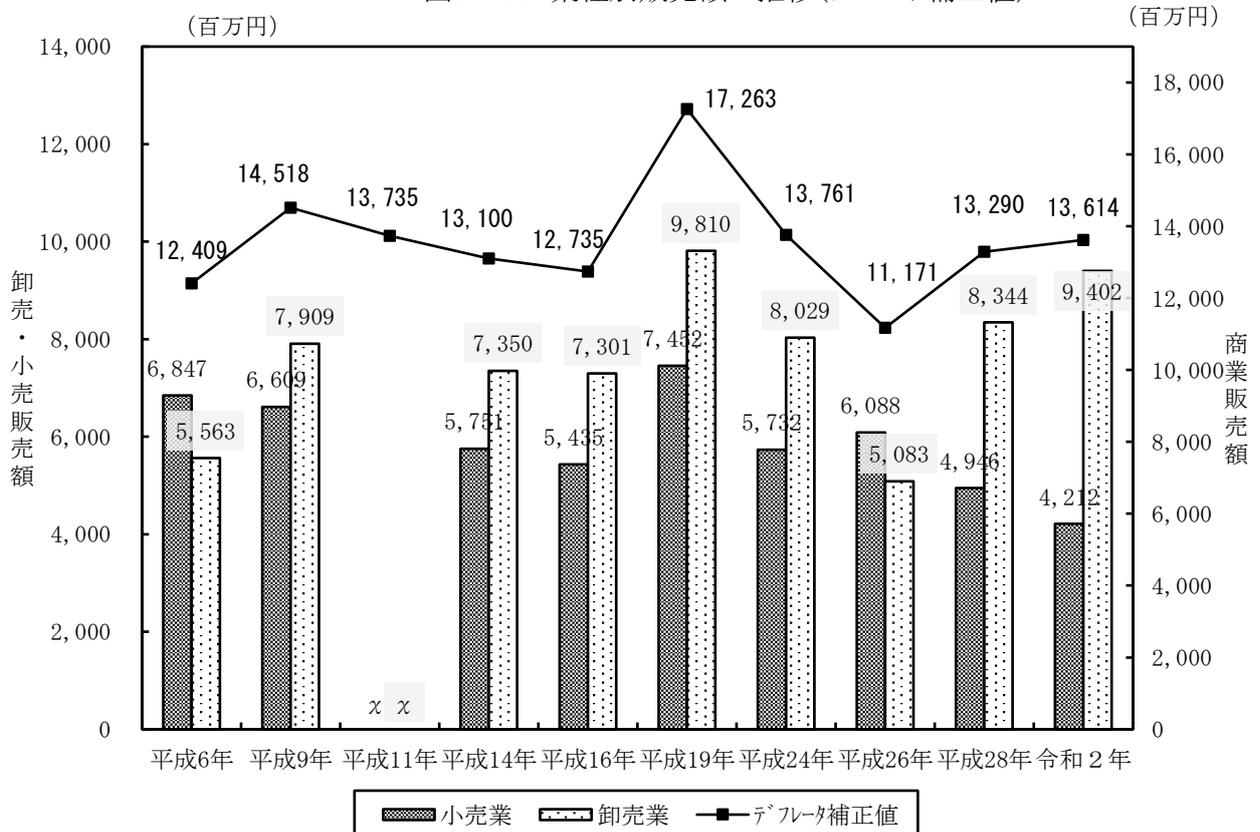


表2-8-1 産業中分類別商業販売額

(単位:百万円)

産業中分類	平成6年		平成9年		平成11年		平成14年		平成16年	
	販売額	デフレータ補正值								
合計	11,913	12,409	14,184	14,518	13,460	13,735	12,550	13,100	12,162	12,735
卸売業計	5,340	5,563	7,727	7,909	χ	χ	7,041	7,350	6,972	7,301
49 各種商品卸売業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50 織物・衣服等卸売業	-	-	-	-	-	-	χ	χ	-	-
51 飲食料品卸売業	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ	χ
52 建築材料、鉱物金属卸売業	704	733	χ	χ	1,337	1,364	1,514	1,580	4,545	4,759
53 機械器具卸売業	4,118	4,290	6,048	6,190	5,685	5,801	5,119	5,343	556	582
54 その他卸売業	χ	χ	χ	χ	χ	χ	354	370	χ	χ
小売業計	6,573	6,847	6,457	6,609	χ	χ	5,509	5,751	5,190	5,435
55 各種商品小売業	-	-	χ	χ	χ	χ	-	-	-	-
56 織物・衣服・身の回り品小売り業	302	315	297	304	232	237	202	211	180	188
57 飲食料品小売業	3,265	3,401	2,975	3,045	2,911	2,970	2,507	2,617	2,616	2,739
58 自動車小売業	873	909	χ	χ	630	643	528	551	693	726
59 家具・建具等小売業	584	608	703	720	509	519	659	688	234	245
60 その他の小売業	1,549	1,614	1,896	1,941	χ	χ	1,613	1,684	1,467	1,536

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした
 全国(総合)消費者物価指数で補正した数値

資料:商業統計調査(各年6月1日)

・χは秘密保持のための伏せ字

表2-8-2 産業中分類別商業販売額

(単位:百万円)

産業中分類	平成19年		産業中分類	平成24年		平成26年		平成28年		令和2年	
	販売額	デフレータ補正值		販売額	デフレータ補正值	販売額	デフレータ補正值	販売額	デフレータ補正值	販売額	デフレータ補正值
合計	16,486	17,263	合計	13,004	13,761	10,892	11,171	13,037	13,290	13,614	13,614
卸売業計	9,369	9,810	卸売業計	7,587	8,029	4,956	5,083	8,185	8,344	9,402	9,402
49 各種商品卸売業	-	-	50 各種商品卸売業	-	-	/	/	-	-	/	/
50 織物・衣服等卸売業	-	-	51 繊維・衣服等卸売業	-	-	/	/	-	-	/	/
51 飲食料品卸売業	χ	χ	52 飲食料品卸売業	χ	χ	/	/	χ	χ	/	/
52 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	6,626	6,938	53 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	4,936	5,223	/	/	5,443	5,548	/	/
53 機械器具卸売業	2,314	2,423	54 機械器具卸売業	χ	χ	/	/	χ	χ	/	/
54 その他卸売業	χ	χ	55 その他卸売業	617	653	/	/	χ	χ	/	/
小売業計	7,117	7,452	小売業計	5,417	5,732	5,936	6,088	4,852	4,946	4,212	4,212
55 各種商品小売業	-	-	56 各種商品小売業	-	-	-	-	-	-	-	-
56 織物・衣服・身の回り品小売り業	140	147	57 繊維・衣服・身の回り品小売り業	37	39	33	34	22	22	4	4
57 飲食料品小売業	2,497	2,615	58 飲食料品小売業	1,121	1,186	1,170	1,200	1,076	1,097	1,789	1,789
58 自動車小売業	885	927	59 機械器具小売業	695	735	1,017	1,043	1,169	1,192	420	420
59 家具・建具等小売業	359	376	60 その他小売業	3,362	3,558	2,382	2,443	2,453	2,501	1,998	1,998
60 その他小売業	3,236	3,388	61 無店舗業	202	214	1,334	1,368	132	135	-	-

注:・デフレータ補正值は、令和2年を100とした
全国(総合)消費者物価指数で補正した数値資料:商業統計調査(各年6月1日、平成26年は7月1日)
平成24年は経済センサス-活動調査(平成24年2月)

・χは秘密保持のための伏せ字

平成28年、令和2年は経済センサス-活動調査(基準日:各年12月31日現在)

・平成26年の産業中分類(卸売業50~55)の数値は、公表されていない。

■将来商業販売額(実質販売額)

平成24年から令和2年までの商業販売額を基に行った推計結果は、卸売業においては令和2年の商業販売額94億円が令和22年には15億円から44億円の幅で推計され、そのうち決定係数の最も高い回帰式によると15億円と推測される。

小売業は、令和2年の商業販売額42億円が令和22年には2億円から20億円の幅で推計され、そのうち決定係数の最も高い回帰式によると20億円と推測される。

表2-9 将来商業販売額(合計)

(単位:百万円)

推計方法	令和2年 (基準年)	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
直線: $y=ax+b$	13,614 (実績値)	13,770	14,197	14,624	15,050
対数: $y=a\log x+b$		13,767	14,191	14,614	15,036
指数: $y=K-ab^x$		13,810	14,306	14,819	15,352
ロジスティック: $y=k/(1+a\exp^{-bx})$		13,640	13,861	14,052	14,216

表2-10 将来商業販売額(卸売業)

(単位:百万円)

推計方法	令和2年 (基準年)	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
直線: $y=ax+b$	9,402 (実績値)	6,109	5,210	4,311	3,412
対数: $y=a\log x+b$		6,109	5,213	4,320	3,429
指数: $y=K-ab^x$		6,190	5,556	4,987	4,475
ロジスティック: $y=k/(1+a\exp^{-bx})$		5,342	3,775	2,460	1,505

推計方法	推計式	
直線	$y=-179.774181038439x+370151.273525245$	決定係数=0.0961
対数	$y=-363064.026662541\log x+2770233.17296952$	決定係数=0.0964
指数	$y=6.47730910663339E+22*0.978605313686352^x$	決定係数=0.0686
ロジスティック	$y=10791.5183246073/(1+3.1376125303974E-106\exp^{-0.119975533107757x})$	決定係数=0.1713

表2-11 将来商業販売額(小売業)

(単位:百万円)

推計方法	令和2年 (基準年)	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
直線: $y=ax+b$	4,212 (実績値)	3,509	2,168	828	-
対数: $y=a\log x+b$		3,513	2,180	850	-
指数: $y=K-ab^x$		3,930	3,148	2,522	2,020
ロジスティック: $y=k/(1+a\exp^{-bx})$		2,687	1,261	520	202

推計方法	推計式	
直線	$y=-268.019299247532x+546247.600077864$	決定係数=0.7647
対数	$y=-540450.34218303\log x+4118136.79891476$	決定係数=0.7650
指数	$y=3.96460379678338E+42*0.956618651662932^x$	決定係数=0.7950
ロジスティック	$y=8197.59162303665/(1+5.6288658602176E-174\exp^{-0.197353242147004x})$	決定係数=0.6941

注:推計にあたっては平成24年から令和2年の数値(デフレータ補正值)により推計。

(百万円)

図2-13 将来商業販売額(実質販売額)

